

あま市民と作る女性活躍情報誌発行业【あま市】

地域の実情と課題

名古屋市の西に位置するあま市は、名古屋市内の企業の通勤圏となっているため、市内での就業率は低く、市外に流出する人口が大きい。また高齢化の進展は、全国平均よりも遅れているものの、65歳以上人口の割合は年々高まっており、財政運営は、さらに厳しさを増していくことが予想される。女性の就労状況においては、就学前児童のいる女性で、パートやアルバイト等で就労している、もしくは就労していない割合が高い。市民意識調査においても固定的な性別役割分担意識がまだまだ根強く残っている状況がみられ、男女が平等に社会参画できていない現状。

事業の特徴

【「私にもできるかも」のきっかけづくり】

あま市で活躍する女性を紹介。読んだ人が「私にもできるかも」と思える内容とした。

【「あま市ならできるかも」の種まき】

あま市に暮らす若い世代が、取材チームの一員として企画に参加し取材を行う。実際に対象者とふれあうことで、将来的に「あま市なら、こんな生き方ができるかも」と視野を広げる機会をつくることのできた。

事業の効果

取材者(特に若い世代である高校生)が、ロールモデルとなる女性から、「活動内容」「ライフスタイル」「活動のきっかけ」「想い」「悩み」などを実際に聴き、情報誌にすることで、将来的に「あま市でならこんな生き方ができるかも」と視野を広げる機会をつくることのできた。また多くの読者が近い存在に感じられる方を情報誌に取り上げたことで、「私にもできるかも」と思えるような内容の情報誌となった。性別役割分担意識の払拭が5年ごとに実施する市民意識調査の結果により期待できる。

目的・目標

固定的な性別役割分担意識を払拭し、女性が多様な生き方を選択できる環境は、「住むまち」として選ばれる際に重要な要素となる。「魅力的なまち」として、あま市をPRすることで、今後あま市に住んでみたいと考える若い人を増やすことにつながり、就業に起因する人口流出の抑制や、地域との連帯感の強化、地域経済の活性化が期待できると考えられる。【男は仕事女は家庭という考えに反対する人の割合】
H27年度44.2%⇒H33年度53%

連携団体

- ・あま市市民活動センター(市民団体)
- ・愛知県立五条高等学校
- ・愛知県立美和高等学校
- ・あま市商工会(経済団体)

今後の課題

- ・情報誌を毎年発行することにより、女性活躍のモデルを示す情報を蓄積し、ウェブサイトやSNSによる発信へと展開していく。
- ・若い世代に参加してもらい、キャリア教育の一環として取材プログラムを実施することで、協働による特色ある学びとして定着させる。
- ・あま市で活躍する女性と、あま市で暮らす若い世代間の情報共有ができるよう交流会などを開催する。

事業の概要

- ①取材前に、編集アドバイザーによるレクチャーを開催。取材体験ワークを通じて取材の趣旨やコツを学んだ。取材後には、振り返り発表会を開催し、感想共有ワーク、記事の作り方や原稿作成ワークを行った。



- ②高校生チーム2組、一般チーム1組に分かれ、それぞれあま市で活躍する女性3人の取材を行った。取材を進める中で、身近にロールモデルを感じる事ができた。



- ③市内約35,000世帯に配布。市ウェブサイトにも掲載するなどし、広くあま市で活躍する女性のロールモデルを紹介することができた。

平成29年12月発行
A4サイズ 4頁 カラー刷り

【デジタル版】あま市ウェブサイト
<http://www.city.ama.aichi.jp>

【取材・記事制作補助】
RACCO LABO